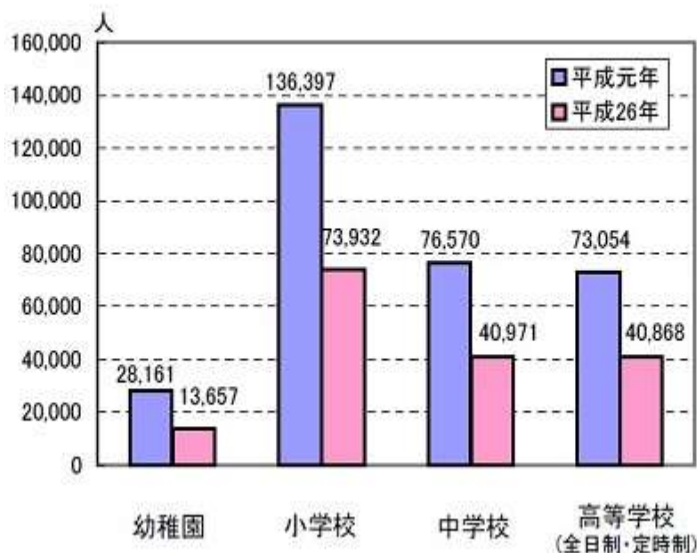




◎地域を見つめ直す機会に（小中学校の適正配置）

長崎県 児童・生徒数の比較（H元年とH26年）



長崎市の過去における主な統廃合実績

統廃先	統廃年月日	統廃元
諏訪小・桜町小	H9.4.1	磨屋・新興善・勝山
小榊小	H13.4.1	小榊・立神
小ヶ倉小	H17.4.1	小ヶ倉・小ヶ倉小大山分校（大山分校廃止）
大浦小	H19.4.1	北大浦・南大浦・浪平
野母崎小	H22.4.1	野母・樺島・高浜・脇岬
黒崎中	H27.4.1	黒崎・神浦
仁田佐古小	H28.4.1	仁田・佐古
高城台小	H28.4.1	高城台・高城台小現川分校（現川分校廃止）
黒崎東小 (H29.4.1～ 外海黒崎小)	H28.4.1	黒崎東・出津

新年度より長崎市教育委員会に、施設課から独立して「**適正配置推進室**」が設置されています。この部署の役割は「**小中学校の統廃合**」に取り組む部署です。

私は10年以上前の市議の時から「統廃合はできるところから」ではなく「**全市的に計画を立て地域に提案し協議をしてもらうべき**」と提案してきましたが、やっと現状をふまえ、そのような取り組みをする方向性がだされたようです。

本市の子どもの数は大幅に減少しており、学校規模については特に厳しい状況にある小学校は次頁のような予測がなされているところで、「**規模の適正化と適正配置**」は先延ばしすることができない大きな課題です。

冒頭、統廃合と述べていますが、行政が考える適正化の方法は統廃合の他に、「通学区域の見直し」「学校施設の増築」「学校の分離新設」も想定していますが、ここに至っては痛みを伴っても積極的な統廃合をせねば本質的な解決にはならないと考えています。

その際にポイントは2つあると考えます。

1. 行政が示す案はあくまでたたき台であり「**決定は地域が行う**」ことの確認
2. 案を示すとき「**統廃合される学校の跡地（建物含む）の活用案**」も示すこと

前段については長崎市も同様な理解を示しており協議を進めるうえでの留意点として以下の3点を挙げています。

- 「子どもたちの教育環境の整備を最優先」
- 「保護者・地域住民との十分な協議」
- 「教育における地域との連携」

跡地も「住宅地として開発や民間へ売却する」「企業誘致、市内の企業移転に充てる」等地域の活性化に資するような提案がないとなかなか理解を得られないものと思います。

今後の取り組みに期待します。



まえてつ通信 2nd

NO. 047-2/2 2017.4.26

長崎市 学校規模の推計（平成 28～42 年度 小学校）

学校規模 学級数	学校名 ※ <input type="checkbox"/> …H28 と H42 の比較において学校規模が変更となる見込み校		学級数		増 減
	H28	H42	H28	H42	
過少規模校 ～5	日吉 南 手熊 川平 伊王島 高島 黒崎東 神浦 池島 尾戸	日吉 南 手熊 朝日 川平 伊王島 高島 黒崎東 神浦 池島 川原 尾戸 形上 長浦	10	14	4
小規模校 6～11	上長崎 西彼 小島 茂木 仁田佐古 小ヶ倉 深堀 式見 飽浦 朝日 稲佐 坂本 銭座 三原 三重 女の都 小江原 虹が丘 西山台 南長崎 鳴見台 香焼 野母崎 蚊焼 為石 晴海台 川原 形上 長浦	戸石 古賀 上長崎 西彼 小島 茂木 仁田佐古 小ヶ倉 深堀 式見 福田 飽浦 稲佐 西町 滑石 北陽 坂本 銭座 三原 三重 女の都 小江原 虹が丘 西山台 南陽 南長崎 鳴見台 香焼 野母崎 蚊焼 為石 晴海台	29	32	3
小 計			39 (56.5%)	46 (66.7%)	7
望ましい 学校規模 12～18	戸石 古賀 矢上 日見 諏訪 桜町 愛宕 大浦 土井首 福田 小榊 城山 西城山 西町 西北 滑石 大園 高尾 北陽 横尾 南陽 桜が丘 村松	矢上 日見 伊良林 諏訪 桜町 愛宕 大浦 土井首 小榊 城山 西城山 西北 大園 高尾 横尾 橋 桜が丘 高城台 村松	23	19	▲4
望ましい学校規 模を超えるもの 19～24	伊良林 戸町 橋 山里 畝刈 高城台	戸町 西浦上 山里 畝刈	6	4	▲2
大規模校 25～	西浦上		1	0	▲1
小 計			30 (43.5%)	23 (33.3%)	▲1
合 計			69 (100%)	69 (100%)	0
（※長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に係る人口動向分析・将来人口推計に基づく）					

小学校・中学校における規模の適正化とは

	メリット	デメリット
小規模校の 教育活動の特徴 【望ましい学校規模】	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の目が行き届きやすく、細やかな指導が行いやすい。 ・授業や行事において、個人の活躍する機会が多くなる。など 	<ul style="list-style-type: none"> ・友人同士や学級間での競争など、切磋琢磨する機会が少ないため、競争心や向上心が育ちにくい。 ・卒業まで同じ学級で過ごすことで、人間関係や相互評価等の固定化を招くおそれがある。など
小学校 12～18学級	【理由】次の要件全てを満たすもの <ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えができること（1学年につき複数の学級が必要） ・学校全体の円滑な教育活動ができること（1学年につき複数の学級が必要） 	
中学校 9～18学級	<ul style="list-style-type: none"> ・同学年への複数の職員配置により共同研究ができること ・部活動の十分な選択ができること ・全教科の職員配置ができること（<u>9</u>学級以上） 	※中学校のみ ※中学校のみ